

活断層・野島断層

地震を起こす原因である活断層と、その中でも代表的な野島断層について説明します。

1 活断層とは

我々の立つ地面を掘り下げていくと最後は固い岩の層（プレート）にぶつかります。プレートにはたくさんの割れ目があります。この割れ目に大きな力が加えられ、割れ目が再び壊れてずれたものが地震です。その衝撃が震動として地面に伝わったものを地震動といいます。

断層のうち、特に数十万年前以降に繰り返し活動し、将来も活動すると考えられる断層のことを活断層と呼んでいます。活断層は過去に何度も地震を起こしているところですので、今後の地震の発生も危惧されます。地震が起きた時、震源となった活断層の近くでは激しい揺れに見舞われますし、活断層の場所によっては長周期地震動や津波といった現象も発生します。

現在、日本では 2000 以上もの活断層が見つかっており、近畿周辺にも多数の活断層があります(図 1)。また、地下に隠れていて地表に現れていない活断層もあり、見つかっていない活断層もあります。そのため、日本中どこにいたとしても地震への注意が必要です。

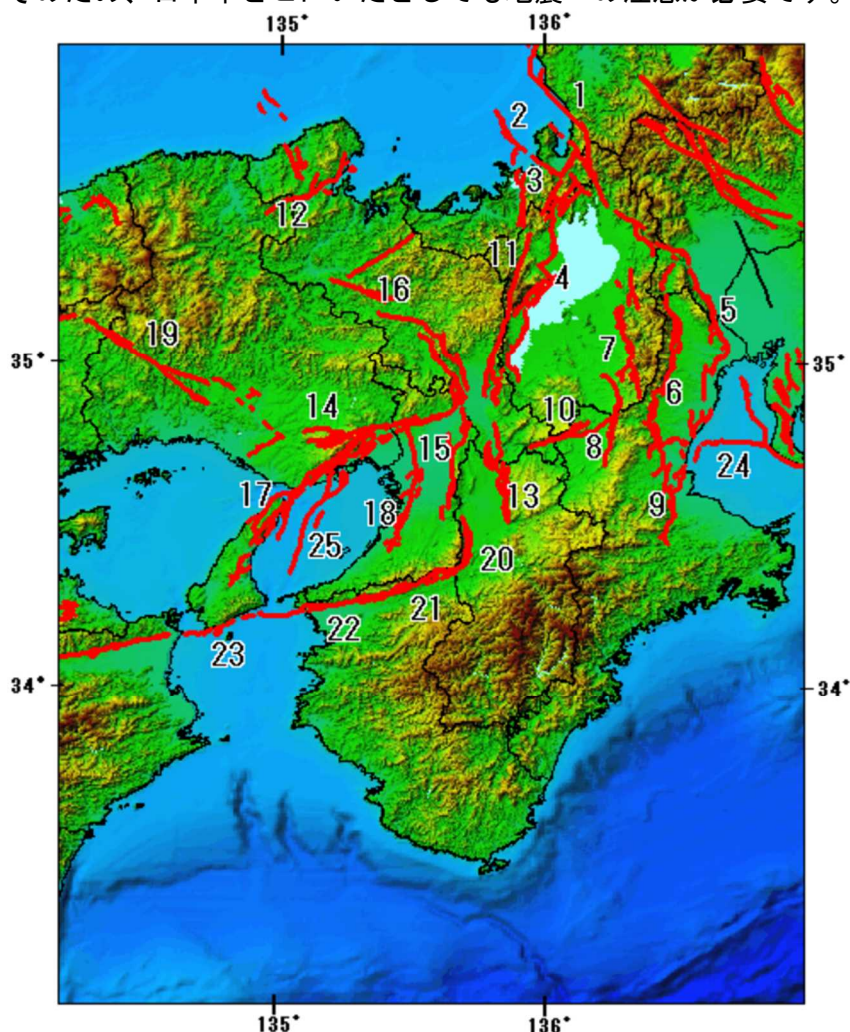


図 1 近畿地方で調査や評価が行われている活断層
(番号は調査にあたって付されているもの・地震調査研究推進本部サイトより引用)

2 野島断層

1995年1月17日の兵庫県南部地震（この地震による災害の名称「阪神・淡路大震災」の方が馴染みがあるかもしれません）を引き起こしたのは、淡路島北部の野島断層（図2）です。この野島断層は、北東から南西方向に伸びており、淡路島北部の旧北淡町から旧一宮町にかけて、断続的に約9kmの範囲で地表に現れています（図3）。



図3 数百mにわたって表出した野島断層

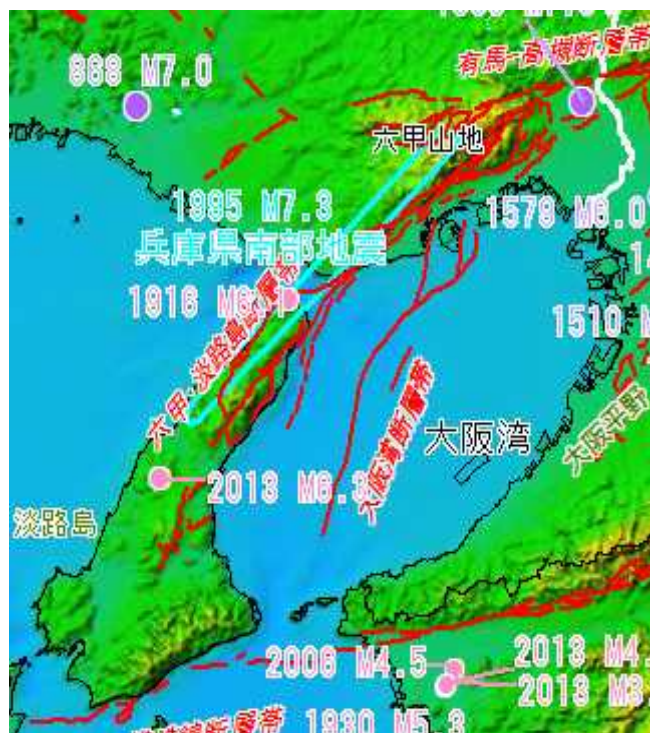


図2 兵庫県南部地震の震源域・野島断層（地震調査研究推進本部サイトより引用）

野島断層の一部は、北淡震災公園内に設けられた野島断層保存館に保存されています（図4）。

野島断層保存館は、「この地内では、断層活動に伴う様々な地形変位が残されているだけでなく、人工物の破壊によって地震の脅威を実感できる様々な現象がよく保存されている。わが国を代表する自然現象である地震現象と断層活動を理解する格好の場として、天然記念物指定し保存を図ろうとするものである。」（文化庁・文化遺産オンライン）として、天然記念物にも指定されています。



図4 野島断層保存館に保存されている野島断層（文化庁・文化遺産オンラインより引用）

兵庫県南部地震以前は、「神戸には地震は来ない」といわれてもいました。しかし、この野島断層のように、いつ、どこで、どの活断層がどんな地震を起こすのかわかりません。すでにわかっている活断層の近くにいるときはもちろんのこと、それ以外の時でも、いつ地震が起きても身を守れるように備えていただきますようお願いいたします。